

平成26年度

武道等指導推進事業

実践事例報告集

平成28年3月

スポーツ庁政策課学校体育室

本実践事例報告集の活用について

本実践事例報告集は、文部科学省が平成26年度の「武道等指導推進事業」の成果を全国各地での取組の参考にさせていただくため、委託先の各教育委員会から提出された実践研究結果をとりまとめたものです。特に、地域の指導者の協力を得て、指導の充実や安全に配慮した指導方法の工夫などに取り組もうとしている学校での活用を期待します。

目 次

1. 実践事例

【柔道】

- ・ 保健体育科教員と地域の指導者との連携によるTTで、段階的な指導により、安全を確保しながら、基礎的・基本的な技能の習得を図った実践例
滝川市立江陵中学校（北海道）・・・ 1
- ・ 地域の武道指導者の協力を得て、教員と連携を図りながら、女子生徒が積極的に学習に取り組むための柔道に関する指導の充実を図った実践例
本宮市立本宮第一中学校（福島県）・・・ 3
- ・ 武道等指導推進委員会を核とした指導の経験の浅い教員のための中学校柔道授業マルチサポートの実践例
茨城県教育委員会（茨城県）・・・ 5
- ・ 地域の指導者と連携することで、安全面に留意しながら、柔道の基礎・基本の習得に取り組んだ実践例
富山市立堀川中学校（富山県）・・・ 7
- ・ 思いやりと一人一人に目を向けた武道（柔道）授業の実践を目指して
倉吉市立久米中学校（鳥取県）・・・ 9
- ・ 生徒が安全・安心・意欲的に取り組む柔道の授業づくり～地域指導者の活用と今できることに工夫を加えて～
多久市立中央中学校（佐賀県）・・・ 11
- ・ 極小規模校（女子生徒のみ）に地域の指導者を武道（柔道）の授業に派遣し、中学校保健体育学習の充実を図った例
西海市立平島中学校（長崎県）・・・ 13
- ・ 技能面・安全面の指導の質を向上させるために、地域指導者を有効に活用した実践例
川崎市立川崎中学校（神奈川県）・・・ 15

【剣道】

- ・ 授業協力者の3年間継続指導による武道に対する生徒の興味関心や意欲の高まりの実践例
藤岡市立西中学校（群馬県）・・・ 17
- ・ 外部指導者を効果的に活用し、保健体育科教員との連携を図った実践例
氷見市立十三中学校（富山県）・・・ 19
- ・ 武道（剣道）における外部講師とのティームティーチングにおける授業実践と教員の指導力向上の実践例
姫路市立大白書中学校（兵庫県）・・・ 21
- ・ 地域指導者との連携による充実した授業の展開
下関市立内日中学校（山口県）・・・ 23
- ・ 剣道の授業における外部指導者との連携のあり方
徳島市津田中学校（徳島県）・・・ 25
- ・ 地域の指導者と連携を図りながら生徒の意欲を高める実践例
唐津市立西唐津中学校（佐賀県）・・・ 27
- ・ 地域の指導者と連携を図りながら、教員の指導力と生徒の技能を高めた剣道授業の実践例
西都市立銀鏡中学校（宮崎県）・・・ 29

【相撲】

- ・相撲の楽しさを味わわせる 相撲指導における外部指導者との連携のあり方
徳島市応神中学校（徳島県）・・・・・・・・・・ 3 1
- ・外部指導者と体育担当教員が連携した武道に親しむ相撲の授業実践例
徳島市川内中学校（徳島県）・・・・・・・・・・ 3 3

【なぎなた】

- ・地域の優秀な外部スポーツ人材を活用し、教員とのTTによる生徒の技能向上を図った実践例
会津若松市立一箕中学校（福島県）・・・・・・・・・・ 3 5
- ・地域の指導者を活用した特色ある武道授業の実践例
琴平町立琴平中学校（香川県）・・・・・・・・・・ 3 7
- ・地域の指導者と連携し、生徒の関心と学習意欲を高め、基本技能の習得を図った実践例
松山市立高浜中学校（愛媛県）・・・・・・・・・・ 3 9
- ・地域指導者との連携を通して、授業内容の工夫と教師の指導力の向上を目指した授業実践
小城市立小城中学校（佐賀県）・・・・・・・・・・ 4 1

【合気道】

- ・外部指導者による合気道授業の実践
丸亀市立飯山中学校（香川県）・・・・・・・・・・ 4 3

【弓道】

- ・弓道連盟の実技協力者の指導による聴覚特別支援学校における武道の実践
静岡県立静岡聴覚特別支援学校（静岡県）・・・・・・・・ 4 5

【ダンス】

- ・外部指導者との連携で技術指導を充実させた実践
新城市立鳳来中学校（愛知県）・・・・・・・・・・ 4 7
- ・外部指導者を活用したダンス授業を通して、協力的な態度と踊る楽しさを味わうことができる授業の実践
名張市立南中学校（三重県）・・・・・・・・・・ 4 9
- ・創作ダンスの授業改善に外部指導者の助言を活用した授業実践
美馬市立岩倉中学校（徳島県）・・・・・・・・・・ 5 1
- ・生徒相互の交流の場を設定し、コミュニケーション能力の向上を図る実践例
高知市立城西中学校（高知県）・・・・・・・・・・ 5 3
- ・運動有能感の高めるダンス授業の実践例～地域の指導者との連携と言語活動の充実を通して～
鳥栖市立鳥栖西中学校（佐賀県）・・・・・・・・・・ 5 5
- ・大学准教授をダンス講習会に講師として派遣し、中学校保健体育科教員の指導力向上を図った例
長崎県教育委員会（長崎県）・・・・・・・・・・ 5 9

2. 参考資料

- ・武道必修化に伴う武道の安全管理の徹底について（依頼）・・・・・・・・・・ 6 1
（平成27年5月8日付け27ス参体第2号）

1. 实践事例

保健体育科教員と地域の指導者との連携によるTTで、段階的な指導により、安全を確保しながら、基礎的・基本的な技能の習得を図った実践例

学校名 滝川市立江陵中学校（北海道）第1・2学年
全校児童生徒数 375名（男子 188名 女子 187名）
種目等 武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0125（24）6156
メールアドレス jimukoryo-jh.city.takikawa.hokkaido.jp

- 1 実践研究のねらい
地域の指導者を活用することにより、生徒の運動に親しむ態度を育み、技能の向上を図るとともに、事故防止を徹底し、安全かつ楽しく運動することができるようにする。
- 2 実践研究の概要
 - (1) 課題について
 - ・地域の指導者と連携を図った段階的な指導の在り方
 - (2) 期待される成果（仮説）について
 - ・地域の指導者の協力を得た段階的な指導を通して、基礎的・基本的な技能の向上を図るとともに、安全を確保することができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

- 1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
 - (1) 取組内容
 - ・地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
 - ・安全面に配慮した段階的な指導の工夫
 - (2) 取組を進める上での工夫点
 - ①地域の指導者との打合せの時間の確保
 - ・放課後や昼休み、始業前の時間を活用し、本時のねらいと事故の未然防止等についてのポイントや役割などを確認した。
 - ②安全面に配慮した段階的な指導
 - ・地域の指導者の助言により、様々な姿勢からの「受け身」、「固め技」を中心とした指導計画を工夫し、安全を確保した。
 - ・生徒の体力差や技能の習得状況を踏まえ、「易→難」「遅→速」「低→高」「単独→相対」などといった難易度を調整して段階的に指導し、学習内容の確実な定着を図った。
 - ③自己評価シート（柔道チェックカード）の活用
 - ・生徒による自己評価を実施し、「分かったこと」や「できるようになったこと」など、知識や技能の習得状況を把握し、授業改善に活用するとともに、自己の変容を把握させた。
 - ④ICT機器の活用
 - ・VTRを活用して、模範演技を繰り返し視聴させることにより、運動のイメージをもたせた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 始業前に健康観察を実施し、生徒の健康状態を把握するとともに、爪の長さ、メガネの着脱、柔道着の着用の仕方、ヘアピンの有無などを確認した。
- 2 ルールや禁止事項の徹底を図り、畳の隙間など練習場の安全を確かめながら指導した。
- 3 新しい技を指導するときには必ず地域の指導者が師範し、発生しやすい怪我の具体例を示した。
- 4 集団で同時に同じ動作を行う場合は、整列の仕方や十分なスペースの確保に留意した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 地域の指導者の協力により、安全面に配慮した段階的な指導をすることができた。
- 2 自己評価シート（柔道チェックカード）を活用し、生徒が自己の知識や技能の習得状況を把握するとともに、地域の指導者と効率的に打合せを行い、授業改善を図ることができた。
- 3 授業評価「技の向上に向けて自分で考えたり、工夫したりした。」の設問で、「工夫した」と回答した生徒の割合が79.8%だったことから、ゲーム的要素を取り入れ、技の向上に向けてグループで交流するなどの言語活動を充実させる必要がある。

○ 研究内容

【安全面に配慮した学習指導】

健康調査の実施と事故の具体例について指導



【段階的な指導の工夫①】

「受け身」、「固め技」を中心とした段階的な指導



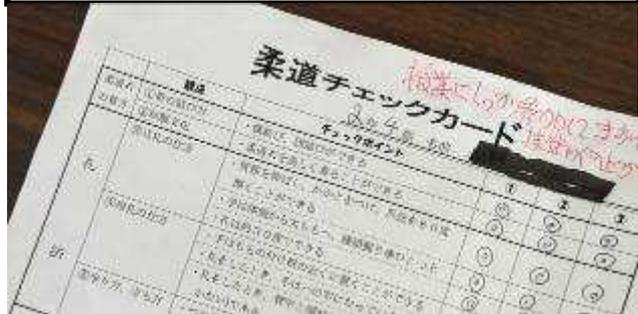
【段階的な指導の工夫②】

ICT 機器を活用した運動のイメージ化の取組



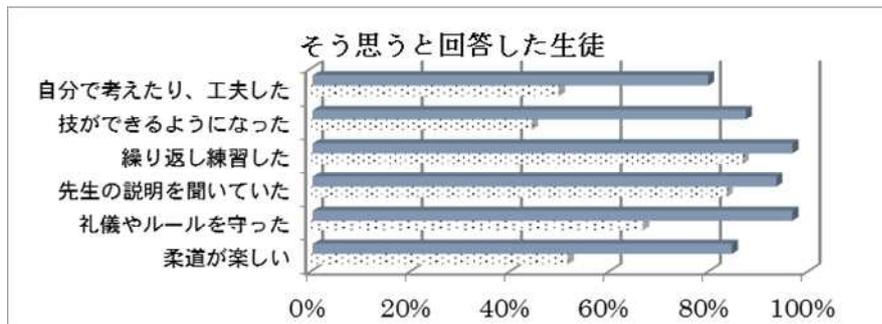
【自己評価シート（柔道チェックカード）の活用】

学びの足跡を記録し、自己の変容を把握



【生徒アンケートによる実態把握（10月実施結果と12月実施結果の比較）】

柔道への関心・意欲・態度、学習内容の定着等について（対象：第2学年男子・女子 141名）



- ・グラフ下（ドット）は、10月初旬のアンケート結果、グラフ上（塗りつぶし）は、12月初旬のアンケート結果である。
- ・グラフから、「柔道の時間が楽しい」「技ができるようになった」などの全ての項目で、「そう思う」と回答した生徒の割合が増えている。

【本事業を実施して】

高い専門性をもつ地域の指導者との連携の有効性

・授業後の生徒アンケート（記述）からは、「一つの技を繰り返し練習することで、受け身などができるようになった。」「相手と組み合う学習は、他の種目ではないので、相手を思いやることの大切さを学んだ。」「自分が怪我をしない、相手に怪我をさせないために、先生の話をしっかり聞いて、学習のルールや礼儀を守ることを学んだ。学校生活などに生かそうと思う。」などの記述が多く見られた。

- ・基礎的・基本的な技能の習得に向けて、高い専門性をもつ地域の指導者と連携を図り、礼節と学習のルールを確実に指導することなどに留意し、安全を確保しながら、段階的な学習指導を展開できた。
- ・今後は、教員自身が、地域の指導者の専門性と豊かな経験に学び、授業改善を図る必要がある。

地域の武道指導者の協力を得て、教員と連携を図りながら、女子生徒が積極的に学習に取り組むための柔道に関する指導の充実を図った実践例

学校名 本宮市立本宮第一中学校（福島県）2年
全校児童生徒数 395名（男子 213名 女子 182名）
種目等 武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0243（33）2249
学校メールアドレス school@motomiya1-j.fks.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 地域の優秀な武道指導者を、より専門性の高い指導者として招聘し、生徒の技能と体力・運動能力の向上を図るとともに、生涯を通じて武道に親しむ資質や能力を育てる。
- (2) 指導経験が豊富な外部指導者と体育担当教員が連携・協力し、模範を示すことで、生徒一人一人が目標を持って、自主的な態度で武道の学習に取り組む態度を養う。

2 実践研究の概要

- (1) 外部指導者と体育担当教員が連携・協力しながら指導することで、女子生徒も具体的な目標を持って、積極的に学習に取り組むものと考えた。
- (2) 外部指導者と体育担当教員が連携・協力して指導することで、より安全に学習を進めることができるものと考えた。また、外部指導者の豊富な指導経験に基づく生徒観察の視点や指導法を体育担当教員が体得でき、指導力の向上につながるものと考えた。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 外部指導者と体育担当教員の連携・協力
 - ① 外部指導者と保健体育教員が組んで、固め技や投げ技の模範を見せることで、女子生徒へも目標とする姿勢や技能を示した。
 - ② 生徒の活動中、外部指導者と体育担当教員が二人で個別指導を実施し、技能の習得に対して、細やかな指導を実践した。
- (2) 指導経験が豊富な外部指導者の指導方法を活かした取組
 - ① スポーツ少年団等の指導経験を持つ外部指導者の工夫した実技指導によって、女子生徒でも運動を具体的にとらえ、積極的に活動することができた。
 - ② 安全面を配慮し、受け身の指導に時間をかけた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 事前に安全に活動するための指導過程について、外部指導者と協議した。
- 2 柔道着の着方、相手に対する礼儀作法について指導を徹底した。
- 3 受け身の技能を身に付けさせるため、様々な方法で受け身の指導を行った。
- 4 外部指導者と体育担当教員の二人で全体を観察し、必要に応じてどちらかが個別指導を行った。

○成果の意義と今後の課題

- 1 武道に親しむ資質や能力の育成：外部指導者が細やかな指導と温かい声かけを行ったことで、生徒は楽しく柔道に親しむことができ、来年度以降への意欲の高まりにもつながった。
- 2 女子生徒への指導において、外部指導者と教員が範を示すことで、柔道の攻防のイメージを持たせ、生徒の積極的な活動につながった。

研究内容

安全への配慮

受け身の細やかな指導



保健体育教員との連携

外部指導者と教員が組んで模範を何度も示した。



積極的な声かけ

積極的な生徒の活動を促した。



体さばきの動き作り

十字にテープを貼り、体さばきを身に付けた。



生徒の意識調査（アンケート）結果から

外部指導者による指導を受けたことに対する肯定的意見が圧倒的多数

- 「運動に関する関心・意欲は高まったと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・・・・・・・ 85%
- 「外部指導者の指導によりあなたの技能は高まったと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・・・・・・・ 90%
- 「専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか」に対する肯定的な回答・・・・ 92%
- 「外部指導者の言葉遣い、態度は指導者として適切だと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・ 85%
- 「外部指導者の指導により、授業は活性化されたと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・・・・・ 87%

以上のように、外部指導者による指導を受けたことに対する肯定的意見が圧倒的多数をしめた。

今後の武道指導のあり方

外部指導者の活用と保健体育科教員との連携

- 本事例は外部指導者と体育担当教員が連携し、受け身の指導から固め技、投げ技に至るまで、多くの場面で模範を示し、女子生徒の積極的な学習につなげることを目的に実施した。男性教員一人では模範を示したり、女子生徒に対して積極的に組み合せて実技指導をしたりすることは難しい。今回のように外部指導者と協力して行うことによって、女子生徒だけでも、自分に合った目標を持ち、積極的に柔道の攻防に取り組みさせることができた。今後も外部指導者を活用するか、できない場合には、T・Tによって模範を示していくことが望ましいと考えた。
- 安全面の視点からも、専門的な目、あるいは二人の目で生徒を観察・指導することで、生徒の習熟度をより理解し、指導に活かせるものと思われる。

**武道等指導推進委員会を核とした、
指導の経験の浅い教員のための
中学校柔道授業マルチサポートの実践例**

学校名 茨城県教育委員会

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 029（301）5353

メールアドレス hotai@pref.ibaraki.lg.jp

- 1 実践研究のねらい
 - （1）「我が国固有の伝統と文化により一層触れることができる」学習教材を開発するとともに、活用後の学習成果を検証する。
 - （2）モデル校（授業協力者派遣支援校）において、学習内容状況調査（生徒及び教員、協力者）を実施し、学習指導要領で必修化されたことの成果と課題を検証する。
- 2 実践研究の概要
 - （1）武道等指導推進委員会を設置し、学習教材の開発（ゲーム教材、知識に関する教材）と学習成果を検証するための学習内容状況調査を実施する。
 - （2）柔道の授業において「指導体制が整わない」など、課題がみられる学校に柔道授業指導者バンクから授業協力者を派遣し、ティームティーチングの授業実践を行う。
 - （3）スポーツ医学の知識に基づく、安全に配慮した指導についての実技研修会を実施する。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

- 1 「我が国固有の伝統と文化により一層触れることができる」学習教材の開発及び配付
 - （1）攻防の楽しさを味わうための学習教材の作成→(DVD)
 - （2）伝統的な考え方や柔道の特性をわかりやすく伝える、知識に関する学習教材の作成→(DVD)
- 2 学習内容状況調査（生徒及び教員、協力者）を実施し、学習指導要領で必修化されたことの成果と課題の検証
 - （1）生徒を対象にしたペーパーテストと質問紙調査の実施
 - （2）授業担当者を対象とした質問紙調査の実施
 - （3）授業協力者を対象としたアンケート調査の実施
- 3 授業協力者を派遣するにあたって工夫した連携方策
 - （1）事業開始前に県柔連、県警と連携した「柔道授業協力者人材バンク」の設立
 - （2）武道等指導推進委員会の構成員として、柔道コーディネーターの配置
 - （3）全体での事業概要説明会及び各学校での事前打合せ会の実施

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 攻防の楽しさを味わうための学習教材の作成
 - （1）競争することに主眼を置かないゲーム教材の開発
 - （2）柔道指導の手引（三訂版）のスマールステップ（技能の程度に応じた段階的な指導）に沿ったゲーム教材の構成
 - ・学習の進め方の例 ステップ1→1に対応したゲーム教材→ステップ2→2に対応したゲーム教材
- 2 スポーツ科学の知識に基づく、安全に配慮した指導についての実技研修会の実施

○成果の意義と今後の課題

- 1 学習教材に対する評価については、活用校から好意的な回答が得られ、特に柔道の伝統的な考え方に関する教材は、生徒の関心・意欲を高めると評価された。生徒の自己評価による定着度をみても「知識」に関する項目の値が高かった。しかしながら、教員や生徒の思考・判断に関する項目の値は依然低いままである。
- 2 全柔連が養成したコーディネーターとの十分な連携により、地域の指導者の活用方策をはじめ、学校や協力者へ様々なアプローチができた。また、柔道授業協力者派遣支援事業により、約1,800名の生徒が、運動学習を通じて、学習指導要領の「技能」、「知識、思考・判断」や「態度」の学習内容をバランスよく学習する機会を得ることができた。

○ 研究内容

【武道等指導推進委員会】 柔道授業の充実を図る、3つの施策の推進

主な施策

- 授業の在り方(武道)の改善を求める教員が多い
- 教員の人事異動に伴って指導体制の不安が大きい学校が、数多くある
- 指導する指導員(指導員)が指導員として指導する必要がある

授業内容の改善	指導体制の改善	教材の活用
<ul style="list-style-type: none"> ゲーム系(ドリルゲーム、タスクゲーム)や知識に関する教材のDVDの活用 全ての学習者への対応 学習者への学習状況 学習内容状況 学習内容状況 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決を図るための専門性を備えた指導員との連携 TTの授業実践 指導員を育成した教材を活用して 指導員を育成した教材を活用して 指導員を育成した教材を活用して 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ等、科学の知識に基づく安全指導をメイン TTの授業実践 指導員を育成した教材を活用して 指導員を育成した教材を活用して 指導員を育成した教材を活用して

【授業協力者の派遣】 課題解決を目指した専門性を持つ協力者とのTTの授業実践

学習教材の活用

柔道で大切にしたいこと

- 闘争感情を自らコントロールすること
- 伝統的な行動の仕方
- 相手を尊重する態度
- 公正な態度
- 健康・安全に留意する態度

【学習内容状況調査の実施】 学習成果を検証するための調査を実施

柔道の学習における調査票

実施期日 平成 年 月 日

学校名 中学校

年 組 氏 名

注 意

- 調査は、すべて本調査用紙に回答を記入してください。
- ①(2)の項目についての学習をまだ行っていない場合は、回答を省略してください。
- この調査の結果が学習の成果に影響することはありません。

① これまでの柔道の学習を通して、「柔道が楽しさ」を学んだものはありますか？

ア 観望できるようになる

イ 技を習得できる

ウ 柔道が楽しくなる

エ 柔道の専門的な知識がわかる

オ その他

【DVD 学習教材の作成及び活用した研修会】 楽しく授業を行うためのゲーム等を DVD にまとめ配付

研修会の様子

【学習指導要領で必修化されたことの成果と課題】 学習内容状況調査から見る生徒の実現状況及び指導者と学習者の意識のズレ

○ペーパーテスト調査の分析

技能の知識を問う問題が3問、思考・判断の知識を活用する問題が4問、知識を問う問題が1問で構成されている。

調査結果から、知識の「技の名称」や「伝統的な考え方」についての正答率が高いが、思考・判断に関する問題は正答率が低くなるなど、「課題に応じた技を選ぶこと」や「知識を活用して説明すること」に課題が見られた。

④下の図のような状況の時、カラー柔道衣の生徒が仕掛ける抑え技として適していると思う技をアからウの中から一つ選んでください。また、選んだ理由を説明してください。

ア 上四方固め イ けさ固め ウ 横四方固め

(柔道授業協力者派遣支援校 生徒 601名調査)

生徒対象のペーパーテスト	内容	正答率(%)
3(1)	知識 技の名称	64.9
3(2)	知識 技の名称	83.3
3(3)	知識 技の名称	95.6
4(1)	思・判: 課題に応じた技の選択	73.0
4(2)	思・判: 活用	48.6
5(1)	思・判: 課題に応じた技の選択	58.0
5(2)	思・判: 活用	40.3
6	知識 伝統的な考え方	73.1

○質問紙調査の分析

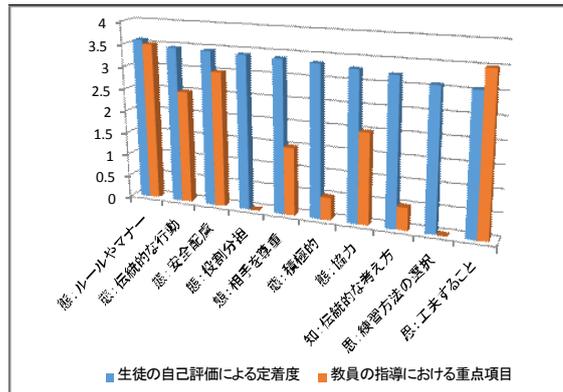
教員と生徒に、技能を除く3つの指導内容に関する10項目の同一の質問紙調査を実施した。教員の重点項目として多く回答されたのは、「ルールやマナー、工夫すること、安全配慮」であり、生徒の回答は、「ルールやマナー、伝統的な行動、安全配慮」である。特徴的なのは、思考・判断の「工夫すること」で、教員全員が重点項目としているにもかかわらず、生徒の値は最も低く、身に付いていないと自己評価する傾向が見られる。

【教師用】今回実施された柔道の授業について、先生が特に意識して指導された項目を下の①～⑩の中から5つ選び、記号でお答えください。

【生徒用】柔道の授業についての質問です。各質問に対して、次の1から4のいずれかで回答してください。

4: そう思う 3: ややそう思う 2: あまりそう思わない 1: そう思わない

(柔道授業協力者派遣支援校 教員7名 生徒601名調査)



地域の指導者と連携することで、安全面に留意しながら、柔道の基礎・基本の習得に取り組んだ実践例

学校名 富山市立堀川中学校（富山県） 1年
全校生徒数 979名（男子496名 女子483名）
種目等 武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 076（424）3646
学校メールアドレス horikawa-jhs@tym.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 地域の指導者とティームティーチングの授業を取り組むことによって、楽しく安全な柔道を実践することができる。
- (2) 地域の指導者の専門的な知識や技能を生かすことによって、柔道の精神や基本的な技能を身につけることができる。

2 研究の取り組み体制

- (1) 地域の指導者と保健体育科教員とで授業の進め方について綿密な打ち合わせを行う。
 - ① 地域の指導者との授業時間の調整
 - ② 指導のねらいや指導内容などについての打ち合わせ
 - ③ 授業における役割分担の確認 など
- (2) 保健体育科教員が行うことを確認する。
 - ① 柔道の実技講習会への参加と、指導方法等についての研修
 - ② 格技室の安全確認と事故発生時の連絡体制を確認
 - ③ 柔道の授業を進めるため資料の準備 など
(生徒の実態把握、指導目標の明確化、単元計画、学習カードなど)

3 実践研究の概要

- (1) 課題について
 - ① 柔道の授業を円滑に進めていくために、地域の指導者とどのようなことを協議し、進めればよいか。
 - ② 地域の指導者の専門性を活かすために、授業の中でどのような位置づけにすれば効果が上がるか。
- (2) 期待される成果について
授業を進めていく上で必要な打ち合わせを密に行い、地域の指導者がその専門性を十分に発揮し、指導しやすい学習環境を整える。そうすることによって、生徒が柔道を安全に楽しく受けることができ、技能向上につながると思う。

○生徒の安全を確保するための配慮（工夫）したこと

- 1 正しく柔道着を着ることや身だしなみを整えるなど、安全に対する心得を理解させた。
- 2 毎回、準備運動や補強運動をしっかり行い、「受け身」の仕方を段階的に身につけさせた。
- 3 同時に同じ動作を行う時は、整列の仕方を工夫し、不意の事故が起こらないように配慮した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 地域の指導者の丁寧で的確な指導により、礼法を含み基礎・基本を確実に身につけることができた。そのため、安全に学習が進められ、柔道に対する意識の変化が見られた。
- 2 地域の指導者とのティームティーチングは、生徒の安全の確保や生徒の技能の向上だけでなく、教員の指導者としての資質の向上にもつながり、とてもよい機会となった。今後も継続していきたい。

○ 研究内容

【地域の指導者によるデモンストレーション】

よい手本を見て、正しい技能を学んでいる。



【地域の指導者による個別指導】

生徒一人一人に応じたきめ細かな助言を行っている。



【安全指導】

同時で行う一斉指導の際、接触がないよう意識を高めた。



【礼法の指導】

基本的な礼法や所作の由来を学習した。



【柔道に対する意識等の変化 -アンケート結果から-】（1年女子 166名）

柔道のイメージ調査

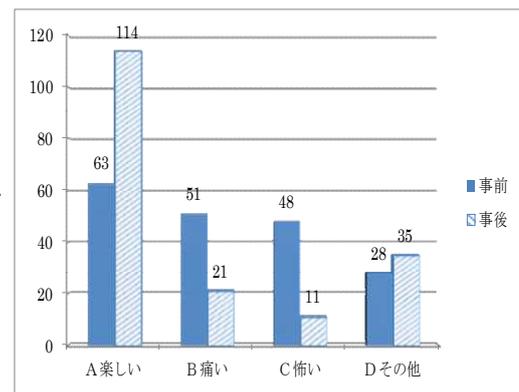
<アンケート内容>（複数回答有）

柔道のイメージをA（楽しい）、B（痛い）、C（怖い）、D（その他）の4択でアンケートを行った。

<結果から>

事前のアンケートではB（痛い）、C（怖い）のイメージが強かったが、授業後にはA（楽しい）と答えた生徒が大きく増加するなど、柔道に対する理解が深まった。

これは、地域の指導者と教師のチームティーチングによる、きめ細かな段階的な指導の成果であると考えられる。



【地域の指導者との連携による授業を通して】

基礎的・基本的な技術の習得について（成果）

- ・基礎的・基本的な技能と柔道に関する知識を深めることができた。
- ・二人体制だと、生徒の動きをしっかりと把握でき、けがや事故がほとんど起こらなかった。
- ・2年連続、同指導者による指導だったので、生徒も親しみを感じており、生徒自らが技の習得のために質問したり、かかり練習をしたりする場面が多く見られた。
- ・受け身の基本を丁寧に指導していただき、生徒の技能向上が見られた。

思いやりと一人一人に目を向けた 武道（柔道）授業の実践を目指して

学校名 倉吉市立久米中学校（鳥取県）2・3年

全校児童生徒数 126名（男子61名 女子65名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0858（28）1241

学校メールアドレス kume-j@mailk.torikyo.ed.jp

1 実践研究のねらい

- （1）生徒と指導者や生徒同士の武道（柔道）の関わりを通して、相手を思いやり尊重する態度を養うとともに、日本古来の武道（柔道）の伝統的な考え方や行動を身につける。
- （2）外部指導者と連携し、基礎的・基本的な知識や技能を身につけさせるとともに、安全に留意したきめ細かな授業を展開する。

2 実践研究の概要

- （1）保健体育科教員がT1として全体指導を中心とし、外部指導者がT2として細かなアドバイスをはじめ生徒一人一人に目を向けて個人に応じた指導を行った。
- （2）柔道指導者としての知識を生かし、礼儀などの日本古来の考え方を指導し、日常生活での「あいさつ・礼儀」等の向上を図った。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- （1）礼儀を重んじ相手を尊重する意義の徹底
 - ① 掲示の工夫…武道館の入り口の注意事項の掲示や床のあいさつマークの設置。礼儀に関するキーワードとなる言葉や詩を壁に掲示し、教師の言葉かけと合わせて視覚の面でも意識をさせた。
 - ② 投げ技における引き手指導の徹底…投げられる側の痛さや安全面に関する意識を促し、準備運動の動き等にも関連づけて、引き手の大切さや技能を徹底して指導した。
- （2）技や技能に応じたグループをはじめ、場の設定を工夫
固定したメンバーで練習することのないよう、バリエーションにとんだグループの学習形態。
（誰とでも組めるペア学習、3～4名の班学習、男女混合で行う生活班学習、クラス交流学习等）
- （3）授業の前後に行う外部指導者とのミーティング
生徒に関する指導上の細かな情報交換、単元の指導計画や一週間先を見通した指導の打ち合わせ

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 武道館の柱や壁をマットでカバー。気温が低く寒い時には、ストーブで室内を暖めるなどケガの防止に注意を払った。
- 2 組み手を始める前のお互いのあいさつの徹底や、投げ技の練習時における投げた後の引き手の徹底を図った。

○成果の意義と今後の課題

- 1 外部指導者の専門家ならではの細かなアドバイスや、二人体制の指導によって安全できめ細かな指導ができた。また、技能面であまりつまづいている生徒や、支援がいる生徒などを中心に指導することができた。
- 2 両指導者のコミュニケーションを深め、指導に関する考え方について、十分な打ち合わせが必要となる。

研究内容

【地域指導者の個別指導】

外部指導者が生徒の動きを確認しアドバイス



【生徒と共に準備運動】

外部指導の先生も時には生徒と一緒に準備運動



【生活班で男女が教え合い】

前回り受け身ボードを使った班学習



【手製の教具と掲示物】

武道の精神の意識付けの掲示物と受け身ボード



【振り返りシートより】

肯定的評価の割合が高く、概ね柔道の学習に満足していた

	学 年	肯定的評価 (十分満足、やや満足)	否定的評価 (やや不満、不満)
柔道の授業を振り返って (全体的な満足度)	2年生	96%	4%
	3年生	100%	0%
練習や試合に積極的に取り組んだか (関心・意欲)	2年生	100%	0%
	3年生	98%	2%
試合では自分の力を十分発揮できましたか	2年生	92%	8%
	3年生	98%	2%
柔道の技能が上達したか (技能)	2年生	96%	4%
	3年生	100%	0%
相手を思いやりながら取り組むことができたか (礼儀、思いやり)	2年生	100%	0%
	3年生	100%	0%

【武道授業の方向性について】

武道授業の取り組みから学校生活の向上を目指して

外部指導者の専門的な指導法や武道に対する考え方を学ぶ中で、生徒も教師も質の高い学習を行うことができた。生徒の安全面や相手を尊重する気持ちが大変強くなり、あいさつなどの礼儀作法もよくなった。日々の学校生活の中に武道精神を取り入れたい。

生徒が安全・安心・意欲的に
取り組む柔道の授業づくり
～地域指導者の活用と
いまできることに工夫を加えて～

学校名 多久市立中央中学校（佐賀県）第1学年
全校児童生徒数 328名（男子168名 女子160名）
種目等 武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0952（74）3971
学校メールアドレス：taku_chuo@school.one23.net

1 実践研究のねらい

- （1）地域の指導者の専門的な知識や経験を生かし、生徒が安全・安心・意欲的に取り組むことができる授業態勢のあり方を探る。
- （2）学習教材や学習形態を工夫して、安全に配慮した場の設定や指導内容のあり方と言語活動の充実を図る。

2 実践研究の概要

（1）課題について

体力の向上を図り、生徒が自発的・意欲的に取り組むことができるような指導法のあり方や学習教材の工夫

（2）期待される成果（仮説）について

地域の指導者との協同授業を行うことで、生徒が専門的な知識や技能を学ぶことができるとともに、意欲的な活動につながり、生徒のみならず教員も指導力の向上が図られるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ①夏季休業中に地域の指導者を交えて、体育科としての指導方針、指導目標、指導計画・内容等についての共通理解を図る時間を設定した。
- ②授業での指示や説明は教員が行い、地域の指導者には特に技術面での指導に役割を担ってもらい、細かいポイントを丁寧に説明・指導を行った。

（2）活動の場の設定や意図的な学習形態の配慮、学習教材の工夫

- ①活動の場の安全確保と意図的な学習形態の人的配慮
- ②自発的学習を促す学習教材
- ③ICT機材の補助的活用
- ④学習カードを利用した言語活動への取り組み

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

50名近い人数で一斉に活動を行うには十分な広さとはいえないため、体操用ロングマット8枚を敷き詰めて活動の場を1.5倍に広げた。また、有段者である教員2名と地域の指導者を含め3名で指導にあたることにより、一人ひとりの生徒への細かい配慮や常に活動場所の安全確保だけでなく生徒の活動状況（受け身、寝技、立ち技）に応じた指導を共同して行った。

○成果の意義と今後の課題

- 1 学校と地域が密着した教育の充実を図ることができた。このために今後も学校と地域の橋渡しとして重要な役割であると考えている。
- 2 計画段階から地域の指導者と共に学習教材まで含めた内容の検討を行っていくことが課題である。

○研究内容

【地域の指導者の活用】

技の模範を示したりするときはT1と一緒に組んで



特に模範実技をするうえでは、心強いし、生徒たちのまなざしが真剣そのもの

【受け身の解説シート】

解説シートを手本に自発的・段階的な練習を促す



必要なところだけを取り出して、ステップ1～6までを段階的に練習できる

【ICT活用】

見学者に協力してもらい、資料掲示や動画撮影

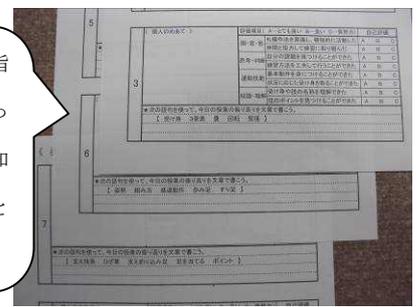
Ipadの方が撮影→動画再生などの操作が簡単にでき、プロジェクター対応も比較的簡単です



【言語活動の手助けとなる学習カード】

自分の言葉で説明できることも言語活動の一つ

授業の振り返りを指定された語句を使って書かせることで知識理解も深めることができる



【武道（柔道）の授業前後に関する運動有能感アンケート】

武道（柔道）授業の前後に運動に関するアンケートを行い、運動有能感の3因子の変化を見る

《運動有能感を構成する3因子》

- ①身体的有能さの認知…自己の運動能力、運動技能に対する肯定的認知に関する因子
- ②統制感…自己の努力や練習によって、運動をどの程度コントロールできるかという認知に関する因子
- ③受容感…教師や仲間から受け入れられているという認知に関する因子

【調査結果】※12項目のうち、それぞれ4項目が3因子となる 5点×4項目＝20点の平均値

	1年男子	授業前	→	授業後	1年女子	授業前	→	授業後
①身体的有能さの認知		9.395		10.270 up		10.196		10.215 up
②統制感		13.750		14.458 up		14.294		14.176 down
③受容感		13.062		13.437 up		14.588		13.784 down

【本事業の成果と課題を踏まえての考察】

運動有能感調査に見る女子生徒に対する指導の方向性

男子生徒においては、運動有能感の3因子すべてにおいて授業前を上回ることができた。女子生徒においては、「身体的有能さの認知」の因子の項目だけが上回ったが、あとの2因子は下回る結果となった。授業の雰囲気においては、男女ともに良い雰囲気で授業を進めることができたが、授業が進むにつれて男子生徒の方がより積極性が増したと感じられる。女子生徒において、統制感と受容感の2因子が授業前より下回った原因としては、学習仲間との関わり方が男子生徒よりも苦手だったということがあげられる。対人的練習が多い柔道の授業で男子生徒は、やはり女子生徒よりも闘争的な本能が勝っており「理解できていなくても、まずやってみる」という傾向であったが、女子生徒は痛い思いをしたくないためか、積極性に欠け「頭の中で理解していても、やろうとしない」傾向があった。安全面からも受け身は「習うより慣れろ」から数多く繰り返して指導してきた。しかし、女子生徒については痛みが先に出たようである。今後、女子生徒については指導内容、回数等を含め、指導を再検討する必要がある。また、女子生徒の指導に対してはもっと褒め言葉を増やして、できなかったことができるようになった喜びを実感させるようにしていかなければならないと考える。

極小規模校（女子生徒のみ）に地域の指導者を武道（柔道）の授業に派遣し、中学校保健体育学習の充実を図った例

学校名 西海市立平島中学校（長崎県）第1、3学年
全校生徒数 2名（女子2名）
種目等 武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 095（894）3393
アドレス n-saiki@pref.nagasaki.lg.jp

1 研究のねらい

（1）専門性の高い地域の指導者と教員が連携を図り、武道・ダンスの体育授業の充実を図るとともに教員の指導力向上を図る。

2 研究の取組体制

（1）事業推進委員会を設置し、事業内容や効果的な事業活用及び運動部活動の在り方等について検討する。

① 構成メンバー

大学教授、長崎県教育委員会及び各市町教育委員会、長崎県高等学校・特別支援学校教育研究会保健体育部会、長崎県教育研究会中学校保健体育研究部会、長崎県柔道協会、長崎県剣道連盟、長崎県舞踊協会の代表。

② 事業推進委員会3回（6/7、1/22、2/20）

（2）連絡協議会の設置

① 学習指導要領の趣旨に沿い、安全面に配慮し児童生徒の発達の段階に応じた指導の在り方等についての講義・実技、質疑応答。

② 地域の指導者同士の実践や課題解決へ向けた情報交換・協議。

（3）中学校・高等学校・特別支援学校体育担当者会での事例報告会

① 研究実践事例の発表と円滑な研究推進へ向けた協議・演習、講演。

3 研究の概要

（1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

① 地域の指導者の確保等

本市教育委員会から県教育委員会へ事前に事業申請を行い、協力を得たい種目（柔道）の指導に適した人材を派遣していただいた。派遣された指導者は、関係団体の講習及び県主催の武道研修会を受講し、学習指導要領の指導内容や指導方法等の理解を深めた競技団体の指導者である。

② 授業における地域の指導者と教員の役割の分担

教員が単元計画を提案し、特に技能の指導内容が発達の段階に応じているか、指導上のポイントは何かなどの助言をいただき、チームティーチングでの本時の展開を立案した。実際の指導においては、担当教員が主となり授業を進め、学習課題の提示や学習内容の指示を行い、指導者が技能のポイントの例示や運動のコツ、よい動きの紹介等を具体的に行った。また、場や用具の安全の確認については、双方で一緒に確認を行った。

（2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

① 保健体育科担当教員が免外教員であるため、研修等で習得した内容を用い、学習指導要領及び同解説で確認をしながら単元における指導内容を明確にした。

② 女子生徒が2名という状況から、指導者が男性であると生徒と組む・押さえる・投げる等の動作を生徒ができないため、指導者を女性に依頼した。

③ 地域指導者から生徒のよい動きの例を紹介していただくことで、学習活動に即した評価規準の具体的な生徒の姿を知ることができ、効果的・効率的な評価へとつながった。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1 保健体育科担当が他教科の教員であること、全校生徒2名という極小規模校という実態を受けて、性別や体格の程度に応じた指導内容を工夫し、特に「受け身」や「投げ技」の指導にサポーターを配置し、安全確保をより確かなものとした。

2 投げ技については、サポーター及び教員が生徒の体格や適性を見極める中で、生徒に無理のない安全な投げ方を紹介し、自他の安全に配慮した技の習得に努めることができた。

○成果と課題

1 専門的な指導により、柔道に関してより理解を深めることができ、生徒の学習意欲が高まっただけでなく、免外教員の指導力向上につながり、更なる研修意欲が高まった。

2 これまでは異性との授業であったため、組んだり投げたりすることができなかったが、指導者も含め女性同士であったため、実技をする時間が増え、技能面の理解が高まった。

研究内容

【柔道についての知識】

武道の歴史と教えについて座学で学びました。



【状況に応じた講師の派遣】

女性指導者の授業により、活発に活動できました。



【投げ技の練習】

細かく丁寧に投げ技の基本を指導してもらいました。



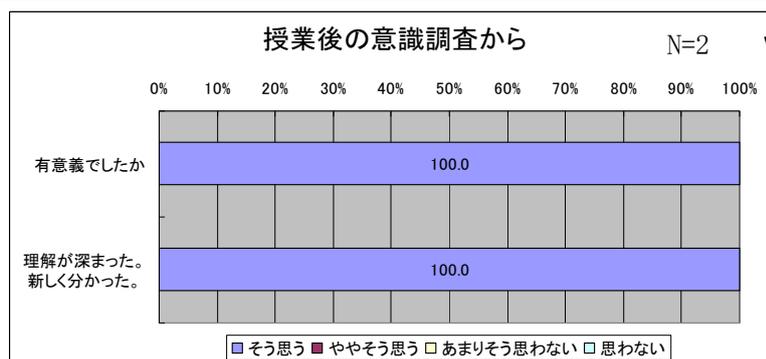
【講師の感想】

極小規模校の授業を指導して

- ・船での移動ということで、行くまではとても不安でしたが、先生方や2名の女子生徒が温かく迎えてくれ、安心して指導することができました。
- ・これまでは男子生徒や男性の先生であったため、組んだり抑えたりすることができなかったが、女子生徒2名と指導者も女性ということでこれまでできなかった内容について、実技を交えて学習することができた。
- ・とても素直で指導したことに対して一生懸命取り組む姿が見られました。

【授業後の意識調査から】

授業後に「授業は有意義だったか」「新しく分かったことや理解が深まったか」について生徒にアンケートを実施



【設問】

- 1 授業は有意義だったか
- 2 新しく分かったことや理解が深まったことがあったか

すべての設問において、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒が100%であり、地域指導者を招聘した授業は大変効果的であったと思われる。

【生徒の感想】

新たな知識や技能を修得できた

- ・専門的な指導者からの指導を受け、非常に意欲的に取り組むことができた。
- ・いろいろなことに挑戦できてよかった。自分の命を守るために柔道の技を使って行きたい。
- ・最初は怖かったけど、どんどんこつがわかり楽しく柔道することができた。

【教員の感想】

生徒・免外教員の意識の高揚につながった

- ・女子生徒のみでの実施のため、女性の指導者に来ていただき非常に助かった。とてもわかりやすい言葉で、的確に指導していただいた。怪我を未然に防ぐために念入りに準備体操を行うなど、安全面に配慮も十分されていた。細部にわたる丁寧な指導で、柔道にはじめて触れる中1生徒も意欲的に取り組んでいた。中3生徒も、今までできなかった乱取りや試合ができて、非常に喜んでいった。来年以降も、同じ指導者に継続的に(複数年度)指導していただくことを希望する。

技能面・安全面の指導の質を向上させるために、地域指導者を有効に活用した実践例

学校名 川崎市立川崎中学校（神奈川県）1・2年

全校生徒数 333名（男子172名 女子161名）

種目等 武道（柔道）

電話番号 044（222）7186

E-mail KE301001@to.keins.city.kawasaki.jp

1 研究のねらい

- (1) 積極的に運動に親しむことができる生徒を育成する。
- (2) 地域指導者を活用することで、授業における技能面・安全面の指導の質を向上させる。

2 研究の取組体制

- (1) 地域連携指導実践に関わる関係機関及び構成メンバー

- ① 川崎市教育委員会
- ② 本校の保健体育科教員（3名）
- ③ 地域指導者（日本体育大学4年生男子2名）

- (2) 地域の指導者と保健体育科教員との連絡協議会の設置

- ① 単元が始まる前に、地域指導者とともに指導計画立案に向けた検討会を行った。
- ② 大学講師の先生に視察をしてもらい、教員、地域指導者とともに連絡協議を行い、指導助言をもらい、授業に生かしていった。

3 研究の概要

- (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

川崎市では、中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践を行うために、教育委員会が地域指導者の人材を確保している。本校は、4年ほど前から柔道の授業において地域指導者をお願いし、授業における技能面・安全面の質の向上をめざしてきた。

地域指導者の招聘に関しては、教育委員会に一任しているが、女子の指導も行えるように女子指導者の希望もした。その結果、今年は日本体育大学の4年生の男子2名が地域指導者として柔道の授業の補助に入ることになったが、女子指導者の希望は通らなかった。

ウォーミングアップや学習形態の説明などは体育科の教員が中心となって行った。技の説明をするときは地域指導者が手本となり、教員が説明し、足りない部分を地域指導者が補足をした。技の練習を行っているときは、全員で巡回しながら指導した。

- (2) 技の練習に積極的に取り組ませるための指導の工夫

- ① 教員が実技研修などで習得した内容を生かし、固め技の指導では、生徒が興味を持って積極的に取り組めるように試合形式（簡易的な）のものを多く取り入れた。
- ② 立ち技の導入では、地域指導者の助言を生かし、受が立て膝になるなど、安全面にも配慮しながら積極的に取り組めるよう指導した。
- ③ 地域指導者が入ることで、より細かい専門的な技術指導が可能となった。また、巡回して指導する際も、人数が増えたため、細かいところまで目がとどくようになった。技能的な部分で生徒を評価するときは、地域指導者の意見も参考にしながら、ポイントを見取ることが可能となった。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 ウォーミングアップのときの隊形。（生徒同士の間隔をあけて、ジグザグに並べ、体の向きを斜めにする）
- 2 生徒同士がぶつからないようにするために赤畳をジグザグに間をあけて敷き、その上で2～4人組をつくって活動させる。
- 3 学習カードに技能の段階表を載せ、技に対する生徒の理解度を高め、指導と評価に生かした。
- 4 体格差を考慮してグループやペアを組ませる。

○成果と課題

- 1 積極的に運動に親しむことができる生徒の育成について
成果：地域指導者が授業に入ることによって、より専門的な技能の指導ができ、生徒が興味を持つことで、積極的に取り組む生徒が増えた。
課題：毎時間地域指導者がいるわけではないので、生徒との関係づくりに時間がかかり、地域指導者からの声かけも、もっとできたのではないかと反省がある。
- 2 技能面・安全面における指導の質の向上について
成果：得意技ごとにグループをつくり、そのグループ1つ1つに教員もしくは地域指導者が1人入って担当し、丁寧に指導することができた。
課題：毎時間地域指導者がいるわけではないので、地域指導者を活用した指導が継続して行えなかった。今年は女子の地域指導者がいなかったため、女子と組んで指導するということができなかった。

○ 研究内容

【地域指導者による専門的指導】

説明文：けさ固めの手本を見せながら説明をする指導者。



【地域指導者による巡回指導】

説明文：巡回しながら生徒に声かけをして指導した



【客観的な成果・分析】

地域指導者に授業で協力・指導してもらうことで技能的なポイントが明確になり、受け身をはじめとする基礎・基本技能の定着が図れた。そのことで、生徒が興味を持って積極的に活動したり、安全に楽しく活動したりすることにつながった。

【実践校としての成果・課題、感想】

今年は女子の地域指導者がいなかったため、技能の高い女子の指導が丁寧にできなかった。やはり2名体制なら、男子1名、女子1名のほうがよいと感じた。安全を確保しながら、生徒に積極的に活動させるというねらいについては、達成できたのではないと思う。地域指導者がいることで、柔道に対する関心が高まり、技能の向上にも役立った。

授業協力者の3年間継続指導による武道に対する生徒の興味関心や意欲の高まりの実践例

学校名 藤岡市立西中学校（群馬県） 全学年

全校児童生徒数 377名（男子179名 女子198名）

種目等 剣道

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0274 (22) 0704

学校メールアドレス fujioka-nisichu@school.gsn.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 専門家である授業協力者による3年間継続指導を通して、伝統的な武道を身近に感じるとともに、剣道に関する興味・関心・意欲の向上を図る。
- (2) 専門家の指導を体験することにより、所作の意味や相手を尊重する大切さを考えたり、技の細かい部分まで注意しながら高いレベルの技能を身につけようとしたりする態度を育成する。

2 実践研究の概要

- (1) 専門家の指導を継続して体験することを通して、武道の伝統的な考え方を理解する。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 授業協力者の協力を得た学習指導の推進

- ① 剣道の授業を始めた当初から、同じ指導者に来てもらい、継続して教えていただいている。
- ② T. Tで授業に取り組み、授業協力者には、範を示しながら、技のポイントなどの指導をしてもらい、教員は、授業規律などに気を配りながら、授業を進める。
- ③ 授業協力者には、部活動でも指導協力者として指導していただく。

(2) 指導の工夫

- ① 伝統的な所作を身につけたり、意味を考えたりするためにどの学年も最初の授業では礼儀作法を指導する。また、剣道の歴史や心構え、防具や竹刀の部分の名称など剣道を実施するうえで必要な知識を身につけ、興味・関心を高める。
- ② 1年生は所作と基本技を中心、2年生は防具の付け方と基本となる技の獲得、3年生はより高度な技の獲得と防具をつけた稽古、と学年による指導内容を具体化し技ができる喜びを体感させる。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1 最初の授業で、約束を確認し、安全な練習の仕方や道具の使い方を知らせる。

2 技をかける方向や順番などにも留意し、衝突によるけがの防止に努めた。

3 防具の点検を行い、防具等の破損によるけがの防止につなげた。また、練習中に防具等がとれたときには、練習をやめすぐに直すことを徹底した。

○成果の意義と今後の課題

1 3年間継続指導を行うことにより、生徒が授業協力者に親しみをもち、積極的に取り組むことができた。また、技の習得についても形が決まっているので大変やりやすく、技の向上が見られた。

2 所作や技の細かい部分まで身につけるためには各学年6時間程度の授業時数では少なく、3年間を見通した授業の組み方をさらに工夫していく必要があると感じた。

○ 研究内容

【礼に始まり、礼に終わる】

剣道の授業の始まりは、精神を整え、座礼で始める。



【正座に耐える】

所作を体験することで、伝統の考え方を理解できる。



【一年生による 基本の動きの一斉指導】

竹刀を持ち、基本動作の練習に取り組む。



【二年生による 防具を着け方指導】

面、胴など防具を着け、打ち込みの練習を行う。



【三年生による 防具を着けての打ち込み稽古】

防具を着け、打ち込み稽古に取り組むことで、相手を意識したり、基本動作の再確認をしたりする。



【剣道を継続して実施することで伝統的な考え方を理解】

3年間の継続指導を実施して8年が経過する。担当する教員としても、年を重ねるごとに剣道の心構えや知識、技能などを身に付けることにつながっている。また、生徒と共に教員自身が学ぶことで生徒理解を進めることができた。

日本の伝統武道としての剣道の心構えや楽しさや奥の深さを生徒達が体得し、技ができる喜びを感じたり、相手を尊重する大切さを感じたりする姿が見られる。授業協力者の先生に3年間継続指導して指導していただくことで、武道としての剣道ができるだけでなく、生き方を学ぶことにつながることも学校生活を送る生徒に有効であると考えている。

外部指導者を効果的に活用し、保健体育科教員との連携を図った実践例

学校名 氷見市立十三中学校（富山県）1・2年
全校児童生徒数 102名（男子50名 女子52名）
種目等 武道（剣道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0766（91）1238
学校メールアドレス jyusan@ed.city.himi.toyama.jp

- 1 実践研究のねらい
 - （1）外部指導者と保健体育科教員が連携し、より充実した剣道指導の在り方を探る。
 - （2）指導経験が浅い保健体育科教員が、外部指導者と連携して学習を進めることで、武道の指導力の向上を図る。
- 2 実践研究の概要
 - （1）課題について
保健体育科教員の指導歴、研修歴が浅く、充実した剣道指導を展開することが難しい。
 - （2）期待される成果（仮説）について
 - ①綿密な打合せを行いながら、外部指導者の専門的な技術指導を取り入れることで、充実した剣道学習を展開することができる。
 - ②外部指導者と一緒に剣道授業指導法講習会に参加したり、剣道指導をしたりすることで、保健体育科教員の指導力を向上させることができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

- 1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
 - （1）外部指導者との連携
 - ①保健体育科教員が作成した指導計画を基に、外部指導者に専門的な視点から助言をいただき、生徒の実態に応じた指導目標や指導計画を立てることができた。
 - ②毎時の授業前後に、打合せを行った。授業後には、本時の評価・反省に加え、次時の学習内容や進め方、役割分担等について細かく確認した。
 - ③それぞれの役割を明確にし、保健体育科教員がT1として授業を進め、外部指導者がT2として専門的な技術の示範や補足、個別指導等を行った。
 - （2）剣道授業指導法講習会への参加（外部指導者、保健体育科教員合同）
 - ①富山県剣道連盟が主催する剣道授業指導法講習会に参加することで、剣道の指導法について共通理解を図ることができた。
 - ②剣道の専門的な技術指導を直接受けることで、保健体育科教員の指導力向上につながった。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 防具のつけ方の指導を十分に行い、身を守ることの重要性を理解させた。
- 2 剣道における危険性について具体例（竹刀の手入れ、扱い方）を挙げ、安全に取り組むように意識させた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 専門的な知識や指導技術を有する外部指導者を招聘することで、生徒の学習への意欲が高まり、基本的技能の習得を効果的に行うことができた。
- 2 綿密な打合せを行ったり、生徒のみならず教員への助言をしていただいたりすることで、保健体育科教員の指導力向上につながった。
- 3 外部指導者の都合によって保健体育の授業時間を変更しなければならないケースがあり、剣道授業と他教科との時間割調整が、今後の課題として挙げられる。

○ 研究内容

【外部指導者による示範】

外部指導者が専門的な技術の示範を行った。



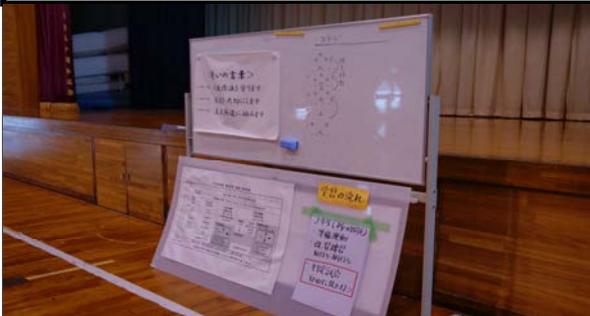
【剣道防具の着衣指導】

外部指導者が、面のつけ方を指導している。



【誓いの言葉・学習ねらい・学習の進め方等の掲示】

学習の流れが分かりやすくなるように工夫した。



【外部指導者と協力して作成した単元計画】

保健体育科教員が考えた計画を基に作成した。

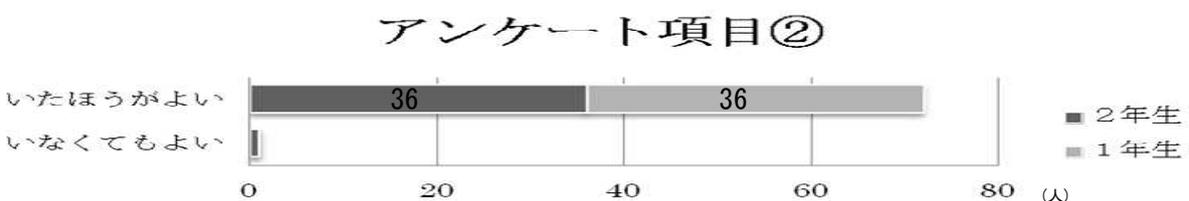
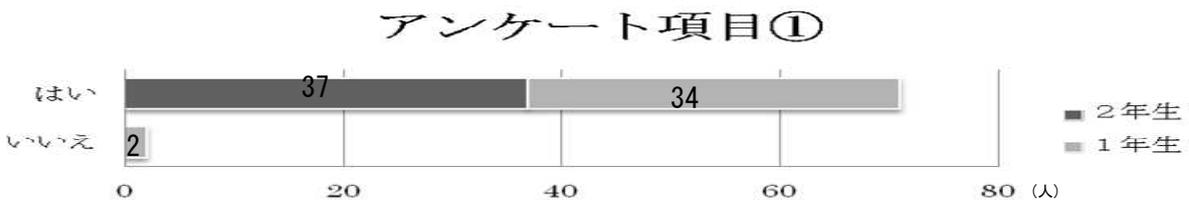
過程	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
0 導入	集合、挨拶 準備運動									
5	着着 集合 誓いの言葉、挨拶 本時の学習課題の確認									
10	準備運動(発声、スキップ、すり足、やっこ風、手刀での基本動作等)									
15	オリエンテーション	着着・整髪	○基本動作	○基本動作	○面の装着	○基本打突	○基本打突	○基本打突	○基本打突	○基本打突
20	開眼	歴史・特長	○基本動作	○基本動作	○面の装着	○基本打突	○基本打突	○基本打突	○基本打突	○基本打突
25	・防具、竹刀について	礼法・座礼	・すり足	・打ち方						
30		足さばき	・送り足							
35		素振り	・素振り							
40		・面打ち	・面打ち	・面打ち	・面打ち	・面打ち	・面打ち	・面打ち	・面打ち	・面打ち
45			・踏み込み動作							
50			・残心							
55	本時のまとめ、評価(教師の評価、生徒の自己評価など) 健康・安全の確認、礼、片付け									
剣道の種別	剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である									

【剣道学習に関するアンケート結果（1・2年生73名）】

外部指導者がいたほうがよいという回答が多かった。「分かりやすく指導してもらえた」という理由が多く挙げられた。

項目①：剣道に興味や親しみをもつことができましたか？

項目②：授業協力者（専門家）の先生に指導を受けてどう思いましたか？



【本事業の成果と課題を踏まえて】

より充実した剣道指導の在り方、保健体育科教員の指導力向上を目指した研究の継続

生徒の授業後の感想は、「最初は怖かったけれど、やってみると楽しかった」「またやってみよう」「礼儀作法を学ぶことができた」など、肯定的なものがとても多かった。生徒が剣道の特性に触れ、達成感や楽しさを味わうことができるように、今後も教員の指導力向上を図っていくことは、必要不可欠である。また、外部指導者に指導していただき、「打ち方や動きが分かりやすかった」「安心して学習に取り組めた」と感じている生徒が多くみられた。より充実した剣道指導の在り方を探るためにも、外部指導者との連携の方法について、更に考えていくことが必要である。

剣道学習を通して学んだ礼儀作法や心構え等を、今後の学校生活に生かせるようにしていきたい。

武道（剣道）における外部講師とのチームティーチングにおける授業実践と教員の指導力向上の実践例について

学校名 姫路市立大白書中学校(兵庫県)第1・2学年男子

全校生徒数 617名（男子326名 女子291名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 079（266）0154

学校メールアドレス ueno_junya@himeji-hyg.ed.jp

1 実践研究のねらい

- （1）外部指導者の指導技術や安全に関する専門的な知識や指導力を生かした授業の実践
- （2）剣道指導経験のない教員が豊富な指導経験を有する外部指導者とのチームティーチングの実践による指導力の向上

2 実践研究の概要

（1）課題について

本校には剣道を学生時代に履修した教員が少ない上、剣道の授業指導経験がない教員がほとんどであったため、指導力向上研修会に幾度か参加するも、自信を持って専門的なわかりやすい説明や授業ができなかったり、模範演技や実技指導ができなかったりした。

（2）期待される成果について

外部指導者との連携を取ったチームティーチングによって、個や集団の能力に応じた指導方法の工夫（初めて剣道に触れる生徒がほとんどであったため、練習内容を工夫し、剣道の楽しさを味わわせる）や剣道の特性（礼法、構えや足さばき）を学ぶことで剣道を履修する意義を学ばせることや相手を尊重したり、自分を律したりする態度を身につけさせることができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- （1）外部指導者と打ち合わせを行いながら、毎時間の流れと内容を確認し、まず外部指導者が授業を行い教員が授業補助をし、別のクラスで教員が授業を進める中で、専門的な技術指導や安全面の指導を実施しながら、その補足や補助を外部指導者に依頼し、授業を展開した。
- （2）授業づくりの工夫
 - ①初めて剣道を履修する生徒がほとんどであったのでゲーム的要素取り入れた授業を展開した。
 - ②実技指導における専門的なポイントや技能評価の見るべきポイントをアドバイス頂いたり、教員の授業を振り返ったりすることにより、自信をもって授業での実技指導に取り組める。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 授業前に生徒の健康状態を把握するとともに、授業中の体調の変化などに留意し、指導した。
- 2 武道場の床や用具（竹刀や防具）の安全点検を行い、竹刀を振る場合に十分な間隔を取ることに留意し、教員と外部指導者の立ち位置を意識し、活動の把握をできるように練習環境に配慮をした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 実技指導における専門的かつ具体的な指導を受けることで、初めて剣道に触れ合う生徒にも非常に意欲的に取り組むことが出来た。
- 2 外部指導者と打ち合わせをしながら進めることで、自信をもって授業に取り組めた。しかし、打ち合わせの時間を確保するのが難しかった。また、45分授業（短縮授業）では防具の脱着の時間により主たる活動の時間確保が難しいことがあった。

○ 研究内容

【防具(面)の着装の説明】

初めて面を着ける時の丁寧な説明



【竹刀で新聞紙切り】

剣先で刃筋正しく切る練習の風景



【有効打突(気・剣・体)の判断基準】

パネルを使っでの有効打突(気・剣・体)の基準説明



【面打ちによる有効打突の判定練習】

3人(気・剣・体)の審判による有効打突判定の練習



【授業後の対象生徒の意識アンケート結果】

事業終了後の第1学年男子116名と第2学年男子34名を対象にした意識アンケートの結果

	第1学年	第2学年	全 体
①剣道に興味や親しみを持つことができたか	94% (109名)	88% (30名)	93% (139名)
②剣道の技能は高まったか	88% (102名)	74% (25名)	85% (127名)
③剣道の伝統的な文化や礼法が身についたか	91% (106名)	76% (26名)	88% (132名)
④剣道の授業は楽しかったか	94% (109名)	82% (28名)	91% (137名)

【アンケート結果からの考察と今後について】

本事業における外部指導者との授業アンケート結果の考察と今後の取り組みについて

上記のアンケート結果のほかにも、剣道授業を楽しみにしていると意欲的に授業に向かう姿勢や、来年度も外部指導者に来て欲しいなどと本事業の取り組みについて肯定的な意見や感想が見受けられ、やはり外部指導者の専門的な指導が受けられるということや本物に触れられるという点が生徒の意欲向上に繋がったと考える。また、外部指導者とティームティーチングする中、集団や個に応じた指導をする上でも共通理解を図りながら指導できることで、剣道の指導経験のない教員も自信をもって授業に取り組めるようになった。今後も教員の指導力向上のため、研鑽を重ねていきたい。

地域指導者との連携による充実した授業の展開

学校名下関市立内日中学校（山口県）全学年

全校生徒数 14名（男子8名 女子6名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 083（289）2431

学校メールアドレス

utsui-chu@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp

1 実践研究のねらい

- （1）地域の指導者と連携し、剣道の歴史、礼法及び伝統的な行動の仕方等について指導の在り方を探る。
- （2）各学年で習得すべき技能について、T Tにより効果的な指導の在り方を探る。

2 研究における取組体制

（1）学校・市教育委員会・県剣道連盟等の連携について

- ・県剣道連盟は、本事業を活用して「授業協力者講習会」を開催するとともに、市町教育委員会担当指導主事との連絡協議会を開催する。この会で、今年度の本格的な武道授業実施前に授業協力者コーディネーターの役割についての周知及び活用実践事例等の紹介並びに中学校武道授業における剣道の普及を図る。また、事例発表の機会を設け、昨年から本事業により地域の指導者と連携した授業を実施している内日中学校の実践発表を行い、その有効性の周知を図る。

（2）地域の指導者と保健体育科教員との連絡会の実施について

- ①生徒の実態を地域の指導者が把握し、教員が示す各学年の指導内容に沿った指導方法について事前協議することで、授業における役割分担を明確にする。
- ②地元の剣道史をオリエンテーションに盛り込むことで、剣道に対する興味・関心をより一層高めることを検討する。

研究の概要

（1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

教員の指導力向上を図るため、地域の指導者と連携した授業を毎年継続実施する。

（2）指導内容・方法等の工夫

- ①地域の指導者が模範を示すことで、生徒の意欲を高め、技能の習得をめざす。
- ②T Tにより生徒の学習の習得段階に応じたきめ細やかな指導に努める。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 剣道の歴史を学ぶとともに竹刀の構造を知ること、点検すべき箇所等を理解し、各自が安全を確保できるようにした。
- 2 面を着けない2人1組の活動等におけるけがの発生事例について地域の指導者から学び、教員が授業を進めるようにした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 地域の指導者から伝統的な行動の仕方や歴史を学ぶことで、動きの意味を理解しながら技能の習得ができた。
- 2 評価規準の作成及び評価方法等の一層の充実が課題である。

○ 研究内容

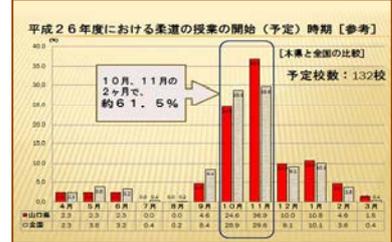
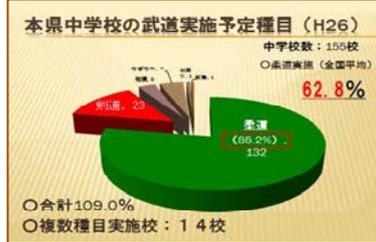
【事前協議会】

県剣道連盟及び市町教育委員会担当主事との連絡協議会

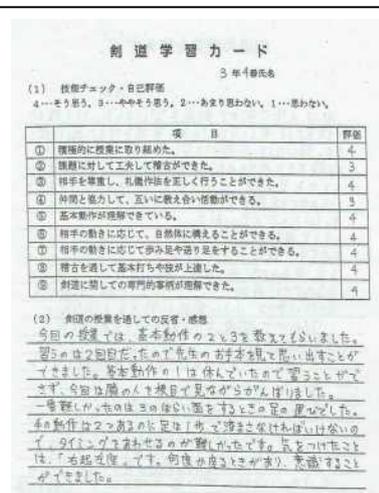


【事前協議会活用資料（一部）】

本県中学校の保健体育科（武道）各種目の実施率や柔道の実施時期を示したグラフ



【学習カードの例】



【単元始めのオリエンテーション】

地元の剣道指導者坂井先生を招き、地元内日の剣道史を学ぶ。



【模範演技の様子】

河島先生による居合いの模範演技。生徒は剣道の礼法についても学ぶ。



【リズム剣道実施の様子】

アップテンポの音楽に合わせて、交互に素振りをしている。



【判定試合の様子】

声の大きさ、正しくできているか、きれいな姿勢を保っているか、きいてみる。



【授業終了時点における生徒の感想】

- ・オリエンテーションで、内日には、昔、すばらしい人がいたということがわかった。また、昔の中学校の校長室には、30を超える優勝旗があったと聞いて、驚いた。
- ・すり足で歩くのが難しく、踵が浮いてしまうので、気をつけたい。
- ・授業のはじめに河島先生に居合いを見せていただいた。真剣を使つての演技で迫力があり、剣道以外の文化を学ぶことができた。
- ・判定試合では緊張したが、今まで授業で学んだことが全部出し切れたと思う。そして剣道についてもっと調べてみたいと思った。

【今後の方向性】

- ・継続して地域の指導者と連携した授業を実施していくことで指導内容及び方法を蓄積し、教員や地域の指導者が代わっても授業の質を保障していけるようにしていきたい。

剣道の授業における外部指導者との連携のあり方

学校名 徳島市津田中学校（徳島県）1, 2年
全校生徒数 356名（男子179名 女子177名）
種目等 武道（剣道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 088（662）0054

1 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者と体育教師が事前の打ち合わせをし、指導目標や指導内容の共通理解を図り、連携した授業を行う。
- (2) 剣道の特性を理解し、礼法や所作を正しく身につけて安全に練習し、剣道の楽しさを味わう。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

- ・ 剣道の特性を理解し、礼法や所作、竹刀の取り扱いを正しく身につける（1年）
- ・ 防具を装着して安全に正しく練習をし、剣道の楽しさを味わう（2年）

(2) 期待される成果

剣道の授業を体験することによって、剣道に関心をもち、今後も剣道に親しむ心をもつ。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 1年女子：「剣道の特性を理解し、礼法や所作、竹刀の取り扱いを正しく身につける」

- ① 共通の指導目標のもと、「心・技・体」を練習のねらいとし、相互の立場を明確にして生徒の指導にあたる。
- ② 「心」声出し、「技」竹刀振り、「体」踏み込みの課題を1つずつ確実に段階的に指導する。

(2) 2年女子：「防具を装着して安全に正しく練習をし、剣道の楽しさを味わう」

- ① あわてず、丁寧に正しく防具を装着できるよう、個別に指導・確認を行う。
- ② 装着後の練習が無理のないように、生徒の状況を確認しながら進めていく。必要に応じて休憩を取ったり、面をはずしたりする。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 毎時間、授業の前に剣道場の床の点検、竹刀の点検を行った。
- 2 防具装着は友達と協力しながらできるだけ自分達で行い、安全に練習が行えるよう装着後の不具合がないか相互に確認させた。支援の必要な生徒については3名の指導者が補助し装着させた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 初めて剣道を体験する生徒（1年生）、初めて剣道の防具を装着して練習した生徒（2年生）が全員であったが、授業後の感想では、剣道についての関心や興味を抱き、「楽しかった」と答えた生徒がほとんどであった。次年度も継続して実践することによって、さらに生徒の意欲的な取り組みを期待したい。
- 2 外部指導者の熱心で丁寧な指導により、短時間ではあったが生徒達は剣道に関する知識と技術を身につけることができた。また、体育教師も専門的、効果的な指導方法を学ぶことができた。

【礼法】1年女子

正座は慣れませんが、座礼を練習



【素振りの練習】1年女子

大きな声を出して！「面」「小手」「胴」



【防具を装着して】2年女子

二人組で、基本打突の練習



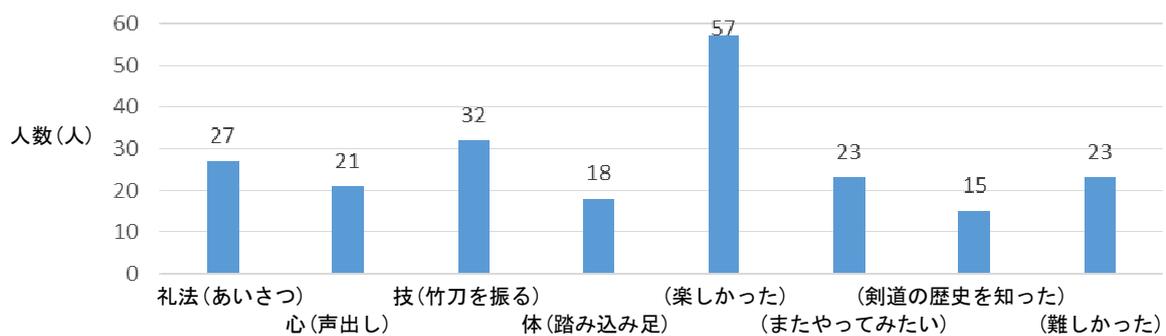
【1対1の攻防】2年女子

やはり、互角げいこが一番盛り上がりました



【剣道の授業で印象に残っていること】

授業終了後、アンケート調査を実施しました。「授業内容について興味を抱いたこと、印象に残ったこと、感想など」



【生徒の感想文から】

- ・私にとって剣道は初めての経験でした。最初はとても難しかったけど、だんだんと慣れてきたら楽しくなってきました。正座や礼儀を学んで歴史を知ったような気がしました。来年も剣道の授業が楽しみです。(1年女子)
- ・「めーん！」と大きな声を出して竹刀を振るとすっきりしました。いろいろなルールもわかりやすく教えてくれたのでよかったです。(1年女子)
- ・初めて面などの防具を着けて剣道をしました。つけるのは大変だったけど、防具を着けるととてもかっこよく、身も引き締まってやる気が出ました。最初は慣れなくて苦しかったのですが、やっぱり打ち合うのが一番楽しかったです。(2年女子)
- ・剣道は怖いと思っていたけど、以外に怖くもないし、痛くもなかったので楽しかったです。早く試合をしたいなあと思いました。(2年女子)

地域の指導者と連携を図りながら生徒の意欲を高める実践例

学校名唐津市立西唐津中学校（佐賀県） 2年

全校生徒数 221名（男子118名 女子103名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0955 (74) 8651

学校メールアドレス j-nishi@karatsu-city.jp

1 実践研究のねらい

（1）地域の指導者の専門性を活かし、基礎・基本を重視した指導を行うことで、意欲を高め安全に留意し武道の学習に取り組むことのできる生徒を育成する。

2 実践研究の概要

（1）課題について

○授業以外で剣道を経験したことがある生徒が、82名中5名と少ない。また本校には剣道部がなく日頃剣道に接する機会がほとんどないなど、技に対するイメージを持てている生徒が少ない。

○剣道に対するイメージが格好いい、凛々しい、強そうなどの良い印象を持っている生徒もいるが、難しそう、臭い・汚い、痛そう、叩き合う、怖いなどマイナスのイメージを持つ生徒が圧倒的に多く、他の種目に比べ活動意欲が低い。

（2）期待される成果（仮説）について

○専門性の高い地域の指導協力者による技の師範に触れることで、技に対するイメージを持ちやすくなり、意欲的に活動に取り組めるようになる。

○教師2名と地域の指導協力者の3名でチームティーチングを行うことで、安全に留意しながら効率的で個別的な指導を行うことができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）授業の最初にオリエンテーションを行い、武道を行う意義や特性について地域の指導協力者と共に説明を行った。

（2）技の練習の最初には、地域の指導者による師範を行ってもらおうと共に、練習の間にも確認できるように視覚資料として壁に掲示したり、剣道ノートに掲載したりした。

（3）安全に正しく打つという意識を高めるために、基礎・基本である竹刀さばきを繰り返し行った。

（4）地域の指導協力者と授業前の授業内容の打ち合わせと授業後の振りかえりを毎時間行った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1 剣道具、竹刀の整備については、授業の始めに生徒自身が点検を行うよう指示を行い時間の確保をした。

2 基本を重視し、安全のためにも正しい打突を確実に身に付けさせるようにした。

3 感情的になって打ち合うことが無いよう、相手を尊重したり自分を律したりする態度を指導した。

○成果の意義と今後の課題

1 地域の指導協力者による専門性の高い技の見本やポイント解説により、生徒の関心・意欲を引きだ

すとともに、剣道授業を楽しみながら基本技能等を身に付けさせることができた。

2 武道の伝統的な考え方についての指導や正しく打つという意識を高めるための竹刀さばきを繰り返し行ったことで、互いに安全を意識しながら学習に取り組むことができた。

3 次年度以降の体育担当教員だけでの指導方法の在り方の検討と指導力の向上を図ることが課題である。

○ 研究内容

【オリエンテーション】

武道学習の心がまえや特性を地域の指導者より説明。



【地域の指導者の指導風景】

技の師範や巡回指導など、技能面の指導を中心に。



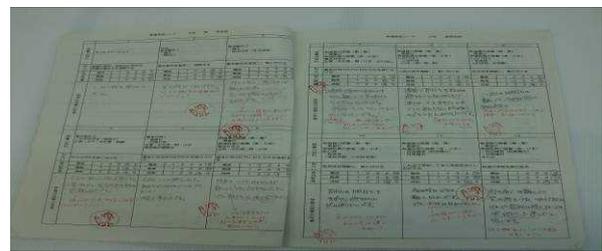
【壁掛け資料】

技の技術資料を視線の高さに合わせて掲示。



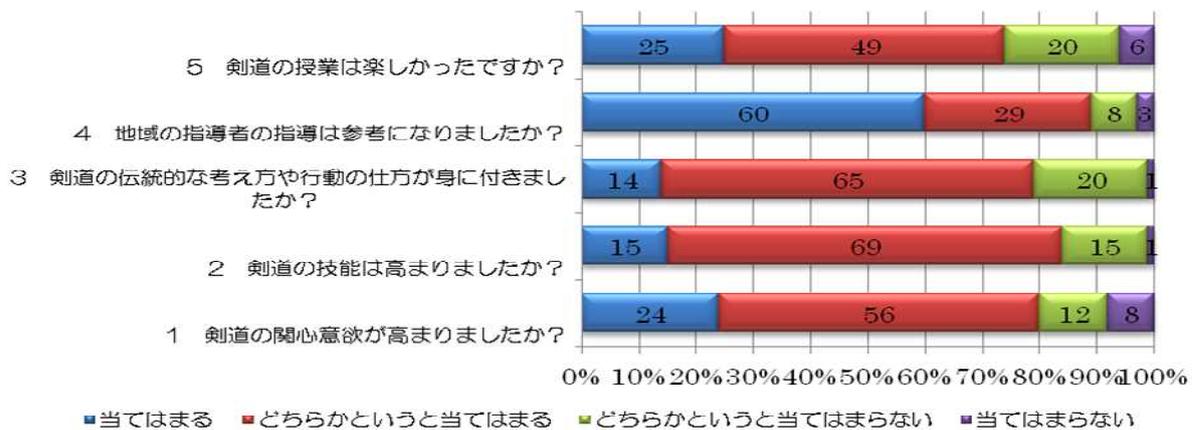
【毎時間の学習ノート】

自己評価と活動の振り返りを毎時間記入。



【授業実施後の剣道授業に関する生徒へのアンケート結果】

授業後のアンケートより、地域の指導者による指導は、関心意欲、技能を高めるのに有効であった。



【事業を終えて】

事業を終えてのまとめと今後の取り組みの方向性。

- ・経験豊かな地域の指導協力者の説明や実技指導により、生徒達は技能面の向上はもちろんだが、授業を通身に付いたもの一番として礼儀作法を挙げる生徒が多くいるなど剣道の特性にしっかりと触れることができた。
- ・本事業を通し、自身の指導について振りかえることができた。教科の専門的指導力を高められるように研究・研鑽をし、特性に触れ、関心意欲、技能を高められる授業づくりに努めた。
- ・日頃触れることの少ない種目でのチームティーチングの有効性を大いに感じた。次年度の剣道指導においても、チームティーチングが行えるよう保健体育科内で検討を行いたい。

地域の指導者と連携を図りながら、教員の指導力と生徒の技能を高めた剣道授業の実践例

学校名 西都市立銀鏡中学校（宮崎県）全学年

全校生徒数 15名（男子6名 女子9名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0983（46）2333

学校メールアドレス 4509ja@miyazaki-c.ed.jp

1 実践研究のねらい

（1）地域の指導者と連携した剣道の授業を行うことにより、剣道に対する生徒の興味や関心、技能を高める。

（2）地域の指導者と連携し、剣道の授業を行うことで、教員の指導力を高める。

2 実践研究の概要

（1）課題について

本校には、体育の教諭がおらず、非常勤講師が授業を実施しているが、講師としての経験も浅く、専門は陸上競技で武道（剣道）の指導経験はない。また、運動が苦手な生徒も多く、剣道を経験したことのある生徒は少ない。

（2）期待される成果について

武道の指導経験のない教員にとって、経験豊富な地域の指導者と連携を図りながら授業を実施することにより、教員の資質の向上が期待できる。また、生徒は地域の指導者の専門的な指導に触れることで、武道の特性や伝統的な考え方を学び、技能向上が期待できる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）剣道の特性に触れさせる指導の充実

剣道の授業を通して、礼儀作法を身につけることができるよう、単元の導入部分だけでなく、授業全体を通じ継続して指導していった。

（2）単元計画や指導法の工夫

初めて剣道を学習する生徒が多いため、学校体育実技指導資料を活用しながら授業を行った。

（3）地域の指導者との連携

教員が授業計画を作成し、授業を展開していき、地域の指導者が技能面に関する専門的な指導や礼法指導を行うなど、役割分担を明確にした指導体制を整備した。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1 生徒の健康状態の把握や、体育館・防具等の安全点検を実施した。

2 地域の指導者と教員が、生徒の運動能力等について、共通理解を図った。

○成果の意義と今後の課題

1 生徒は基本的な動きや技の習得のみならず、武道の特性や伝統的な考え方を学ぶことで、剣道に対する興味や関心、技能を高めることができた。また、指導経験の浅い教員にとっても得るものが多く、大変意義のある時間となった。

2 少人数のため全学年での授業を実施したが、次年度以降、発達段階に応じた個別指導にも力を入れていく必要がある。

○ 研究内容

【地域の指導者との打合せ会】

地域の指導者、体育の非常勤講師、担当者による事前打合せ会を実施している様子。



【礼法の指導】

最初の授業で、重点的に礼儀作法を指導している様子。次時以降も継続して指導を実施した。



【剣道具（防具）の装着】

剣道具（防具）を装着している様子。装着の仕方丁寧な指導していただいた。



【基本試合】

計画的に授業を展開することができ、生徒の技能も高まった。



【実践を通じた感想】

<保健体育教員（非常勤講師）の感想>

初めは、地域の指導者との連携による指導ということで、少し戸惑いも感じたが、多くの協力を得て、授業を円滑に行うことができた。また、専門的な指導者の示範や実技指導に身近に触れることで、専門的な知識や技能を習得するなど、自らの指導力向上や今後に生かすことができた。

<3年生女子生徒の感想>

剣道の授業を終えて、礼後の大切さと感謝することの大切さを学びました。10時間の剣道の授業には、地域の方が講師として来て下さり、授業の中でお辞儀の仕方から剣道の基本まで、丁寧に教えて下さいました。剣道は、体力を使うし集中力もいるのできついです。しかし、私たちのために剣道を指導して下さい下さる方がいらっしゃるからこそ、多くのことを学ぶことができたことに感謝しなければいけないと思いました。剣道の授業を通して学んだことを、これからの生活にも生かしていきたいです。

<実践校担当者より>

例年にも増して、充実した武道の授業であった。次年度以降も、本事業を継続して実施していきたい。